

令和 7 年度

教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	35	学校名	関高等学校
------	----	-----	-------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	自己実現と社会貢献ができるひとの育成に取り組む高校として 校訓「進取・至誠・練磨」のもと、探究的な学びを推進した教育活動を通して グローバル・リーダーの育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	豊かな人間性を備え、課題発見・課題解決力を活かして、自己実現と社会貢献ができるひとを育成する。		
3 つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・高校時代に確かな学力を身につけ、自分の将来を設計できる生徒（日々錬磨） ・課題解決力やコミュニケーション力を身につけ、どんな困難にも立ち向かえる生徒（進取の気概） ・豊かな人間性を身につけ、人の立場を理解し、思いやりある行動がとれる生徒（至誠の心） ・グローバル社会にふさわしい素養を身につけ、多文化共生をめざすことができる生徒（グローバルな視野）	
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・教育課程の編成や授業改善により「思考力」「判断力」「表現力」「コミュニケーション力」を伸長し、多様化する大学入試制度等に対応した進路指導を実現（Study hard!） ・生徒会活動・部活動及び学校行事への主体的参加を促し、集団における個の役割を自覚させるとともに、個を活かす集団づくりを支援（Work hard!） ・学校生活の中で、互いを尊重できる人間関係の構築と、感謝の気持ちを大切にした行動の具現化を図り、生徒の心身の健康保持のため、家庭との連携を強化（Be polite!） ・総合的な探究の時間で取り組むSDGsの実現に向けた課題解決型研究を通して、グローバルな視野をもち、多分野で活躍できるひとを育成（Be global!）	
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・高校時代に基礎学力を向上させ、卒業後は大学等に進み、より深く学びたいと考えている生徒 ・自ら課題を発見し、その課題を解決しようという意欲にあふれた生徒 ・学ぶこと・知ることの楽しさを見つめたいと強く願う生徒	
学校の抱える課題	【教務部】生徒の可能性を最大化させるような積極的な指導が不足している。スタッフが関わっても、探究活動を継続させていけるような環境整備に不安がある。協働的な学び、ICT活用などを行っているが、その実態や成果が保護者、地域に伝わっていない。 【生徒指導部】様々な事案対応がある中で、家庭との連携はもちろんのこと警察や外部機関との連携をより一層図っていくことが重要である。 【教育相談部】生徒間の良好な人間関係構築・コミュニケーション不足に対する支援、増加する進路実現・学業不振に係る不安・悩みへの寄り添い。家庭との連携・家庭への情報発信。校内教育支援センター（ほっとプレイス）の整備。 【進路指導部】進路指導室の生徒の利用しやすい点で改善が必要である。本校中位層の生徒の学力向上のための方策をさらに工夫する必要がある。学習、入試のデジタル化が進む中での本校進路指導部としての対応方法を進化させる必要がある。 【特別活動部】感染症や熱中症対策を施しながら、どのような活動を行っていくことができるかを見極める。勉強と部活動の両立を図りながら、充実した活動を行う 【保健厚生部】学校評価アンケートの「施設・設備は、学習の面でほぼ満足できる」という項目の評価が、昨年よりも低くなっている。老朽化していても清潔な校内を保つことができように、生徒会や委員会の生徒の意見を集めて更に検討したい。		
教育指導の重点		今年度の具体的な重点目標	
	進路指導	確かな学力とともに、勤労観や職業観を涵養し、自分の将来を設計できる能力を育成する（勉強する関高生“Study hard!”）	
	生徒指導	生徒一人ひとりのコミュニケーション能力や課題解決能力を育成する(マナーの良い関高生“Be polite!”）	
	特別活動	集団の中で互いに尊重できる豊かな人間性と個の役割を自覚し主体的に実行できる力を育成する（汗を流す関高生“Work hard!”）	
	その他	国際的な素養を身に付け、多様な価値観を認めあえる人材を育成する（グローバルな関高生“Be global!”）	

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域 分野	3 つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的な取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
進路指導	①生徒、教員にとって入りやすく利用しやすい進路指導室を目指します。生徒・教員ともに進路意識を向上させる支援を行います。	施策Ⅳ-20	①校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価 8 0 %以上。 ②校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価 8 0 %以上。 ③校内生徒アンケートの該当箇所に関する肯定的評価 8 0 %以上。				
	②キャリアプランニング能力を高めるために進路行事を幅広く実施し、生徒が自己実現できる力を養成します。また、特色ある教育課程のもと、生徒の多様な進路希望実現のための学力向上を図ります。	施策Ⅱ-13					
	③大学入試の多様化や新学習指導要領に対応した、思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力を伸ばすための授業改善に努め、主体的に学習に取り組む姿勢を養います。	施策Ⅱ-11					
生徒指導	①教職員の声かけと生徒会活動が一体となることで、「時間」「約束」を守り、「挨拶」「感謝」を大切にした行動の具現化を図ります。	施策Ⅰ-1	①遅刻数、欠席数、携帯使用マナー違反の減少傾向を維持。 ②保健室、教育相談だよりを生徒や保護者あてに月 1 回程度発行。いじめアンケート・いじめ防止等対策検討会議を年 3 回実施。心のアンケートを年 4 回実施。 ③PTA 役員会、保護者懇談会、地域の声によって評価。				
	②安全・安心な学校生活を送るために、生徒の心身の健康を支援する環境づくりと家庭との密な連携をします。	施策Ⅲ-19					
	③学校の教職員、生徒、保護者、地域の方々の連携を深め、教育活動を展開します。また、ホームページ、広報誌、回覧板等を活用して、地域に情報を発信します。	施策Ⅰ-7					
特別活動	①生徒が生徒会活動やF R Hに関わる活動を経験し、様々な行事を主体的に運営できるよう、支援をします。	施策Ⅰ-1	①校内生徒アンケート「協力して取組む」や「お互い認め合う」といった項目の肯定的評価 8 0 %以上。 ②部活動の登録率 8 5 %以上。 ③地域と連携した活動に関わる生徒の比率 2 0 %程度。				
	②部活動への積極的な参加を促し、集団における個の役割を自覚させると同時に、個を活かす集団のあり方を学び、協調性と個性を尊重する態度を養います。	施策Ⅳ-25					
	③F R H活動や異校種間交流の機会を通じて、地元の様々な催しに参画し、積極的に校外で関高生が活躍する機会をつくります。	施策Ⅰ-4					
その他	① 1 年次で地域の活性化に取り組み、2 年次で S D G s を扱う課題解決型研究において、生徒の視野を大きく広げる支援をします。	施策Ⅱ-8	①各学年の H R ・学年発表会の実施。全校発表会では 2 年次生は All English で発表。 ②語学の力を活かす活動の参加者の増加。 ③各講演会・交流会のオンライン参加を含めた外部参加者 1 0 0 名。				
	②語学の 4 技能を高め、グローバルに活躍できる人材を育成し、さらにその力を活かす機会として国内外の研修や地域の催しへの参加を促します。	施策Ⅱ-11					
	③地域の方々、卒業生、保護者等、多様な人材を活かした講演会や交流会を実施します。また広報活動を活性化させ、講演会・交流会を地域の方々に開放します。	施策Ⅰ-4					

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和 8 年 月 日

学校関係者評価

実施日：令和 8 年 月 日